

東アジア研究科に在籍しています磯田 将史です。現在も仕事を続けながら、大学院に通っています。私の経験が、特に社会人の皆さんが大学院に進学するきっかけになればと思い、筆をとりました。

私の研究分野は、経済史で、日本とイギリスの港湾再開発を研究しています。港湾関係の業務に就いたことから、この再開発に興味を持ち、「再開発が成功するには、どのような要因が関係しているのか」と考える中、より深く研究したいとの思いから、東アジア研究科に入学しました。

大学院で学ぶメリットは、大きく3つあると考えています。それは、1. 実務と研究の両方を横断することで、より幅広い課題解決の方法を獲得できること、2. 世界中のより信頼性の高い情報へのアクセスが容易になること、3. 仕事や自宅とは違う「第三の場所」を得られるということです。

日々の業務では、様々な選択肢があり、容易に結論の出ない課題も多くあることと思います。通常の業務では、自分の組織内での検討のみで、他の地域、あるいは他の事例を横断的に確認する機会は限られています。あえて実務から離れ、より広い視点で物事を深く観察し、研究されることは、所属される組織にとっても、何よりご自身にとっても、有益な機会であり、博士課程は、その考え方、プロセスを学ぶのに最適な場所です。

また、インターネットをはじめ、情報を収集する機会は数多くありますが、大学図書館をはじめ、世界中の大学、公共図書館とネットワークがある大学院は、書籍、論文等より信頼性の高い情報を得る場としても最適です。

さらに、大学院は、仕事とも自宅とも違う、あなたにとって「第三の場所」となります。日常から距離を置き、日頃とは全く違う自由な大学で過ごすことは、これまでとはまた違ったりラックスした時間を得ることができると思います。

少しでも興味を持たれた方は、東アジア研究科に一度お尋ねになってみてください。

この記事を読まれた実務に携わる皆さんが、ご自身の課題解決の場として、この東アジア研究科を活用されることを心より願っております。

東アジア研究科3年 磯田将史

